

Ⅱ. 児ノ口公園

Ⅱ－１. 事業概要

(1) 事業概要

児ノ口公園の事業概要は以下のとおりである。

表 事業概要

■事業名	児ノ口公園
■事業分野	公園
■事業の種類	改良事業
■賞の受賞	2004年土木学会デザイン賞
■特に参考となる効果	親しみ・愛着、誇り
■事業対象・規模	対象：児ノ口公園（愛知県豊田市） 規模：2ha
■事業主体	豊田市
■周辺の関連事業	なし
■景観検討の段階	構想・計画・設計・施工
■PIの有無	・市民説明会 ・里山植樹会
■事業期間・竣工	竣工：1996年
■事業概要	<p>豊田市はトヨタ自動車の工場の完成とともに、自動車産業を中心とした製造業が発達しており、市内には、トヨタ自動車の関連企業が数多く立地している。また全国市町村で、製造品出荷額が一位となっている。</p> <p>市政としては「生涯を安心して生き生きと暮らせる市民」「共働による個性豊かな地域」「水と緑につつまれたものづくり・環境先進都市」をめざすべき姿とする第7次総合計画が2008年度に策定された。</p> <p>児ノ口公園は、名鉄三河線豊田駅から500m程度、徒歩10分程度と近接しており、周辺には住宅地が広がっている。西側には国道153号が近接して走っており、さらに西には矢作川が流れている。</p> <p>昭和30年頃、五六川の暗渠化とともに近代都市公園として整備された児ノ口公園は、矢作川浄化用水導入事業が決定した。この頃の五六川は地下水路として家庭排水等を処理する機能しか持たなかったが、これを都心地区に生物生息空間を創造するものとして五六川の再生をめざし、児ノ口公園再活性化事業が開始された。</p> <p>整備により暗渠化されていた五六川は多自然工法により再生し、公園内を蛇行して流れている。護岸は空石積みで整備されており、止水域の形成等と併せて多様な生物が生息できる空間を形成している。国道側には里山を造成し、市民の手により約8000本の植樹がなされ、幹線道路と公園の緩衝帯としての役割を果たしている。また、本来湿地帯として整備される予定だったエリアは、現在では共有のたんぼとして地域に利用されている。公園内の園路はほとんど舗装されておらず、利用者が通りやすい場所が園路として形成されている。さらに、管理施設として「ちごの庵」が公園の北側に位置し、維持管理、催し等地域活動における拠点として利用されている。</p>

(2) 事業対象地位置

豊田市はトヨタ自動車の工場の完成とともに、自動車産業を中心とした製造業が発達しており、市内には、トヨタ自動車の関連企業が数多く立地している。また全国市町村で、製造品出荷額が一位となっている。

市政としては「生涯を安心して生き生きと暮らせる市民」「共働による個性豊かな地域」「水と緑につつまれたものづくり・環境先進都市」をめざすべき姿とする第7次総合計画が2008年度に策定された。

児ノ口公園は、名鉄三河線豊田駅から500m程度、徒歩10分程度と近接しており、周辺には住宅地が広がっている。西側には国道153号が近接して走っており、さらに西には矢作川が流れている。



図 事例対象位置図

(3) 児ノ口公園の整備の経過

①戦後の都市公園としての整備

戦後の豊田市街地の拡大に伴い、昭和 30 年代半ばの土地区画整理事業により五六川はコンクリート化された。その後、面積約 2 ha の都市公園「児ノ口公園」を整備するために暗渠化された。当時の公園には近代都市公園として、市営プールや野球場等の施設が整備され、広場にはブランコやジャングルジム、滑り台などが整備された。

②都心地区の自然空間の創出

平成 3 年頃、「水と緑のまちづくり」をテーマとした豊田市は市街地に水と緑のネットワークを創出する事業を展開していた。この一環として豊田市の建設省（当時）に対する働きかけにより、矢作川の浄水を市街地に流す事業として矢作川浄化用水導入事業が決定した。この頃の五六川は地下水路として家庭排水等処理する機能しか持たなかったが、これを都心地区に生物生息空間を創造するものとして五六川の再生をめざし、児ノ口公園再活性化事業が開始された。

③児ノ口公園の整備の内容

暗渠化されていた五六川は多自然工法により再生し、公園内を蛇行して流れている。護岸は空石積みで整備されており、止水域の形成等と併せて多様な生物が生息できる空間を形成している。国道側には里山を造成し、市民の手により約 8000 本の植樹がなされ、幹線道路と公園の緩衝帯としての役割を果たしている。また、本来湿地帯として整備される予定だったエリアは、現在では共有のたんぼとして地域に利用されている。公園内の園路はほとんど舗装されておらず、利用者が通りやすい場所が園路として形成されている。さらに、管理施設として「ちごの庵」が公園の北側に位置し、維持管理、催し等地域活動における拠点として利用されている。



再生された五六川



国道と公園の緩衝機能を持つ里山



市民に利用されているたんぼ



住民活動の拠点となる「ちごの庵」

④児ノロ公園の維持管理体制

公園内の日常的な管理は、「児ノロ公園管理協会（＝公園整備時に設立した「児ノロ公園愛護会）」が豊田市と維持管理費の委託契約を結び実施しており、地域主体の維持管理体制が確立している。また公園内の照明、高木の枝打ち等、地域による管理が難しいものについては豊田市が管理するという体制が採られている。

Ⅱ－２．計画・設計の意図および期待される効果

(1) 計画・設計の意図

文献調査、設計者ヒアリング、事業者ヒアリングより、当該施設の整備方針は、大きく2つに整理される。

以下に、各方針に対する計画・設計の考え方と内容をまとめる。

1) 多自然工法による自然空間の創出・原風景の再生

昭和30年頃に整備された児ノ口公園には、グラウンドと屋外プールが整備されており、現在のような自然を楽しむ公園ではなく、主として運動公園としての位置づけが強い公園であった。本整備にあたっては豊田市の「水と緑のまちづくり」を基本として、以下の大きく2つが目的として設定されている。

1. 都心部における自然空間の創出
2. 原風景の再生

また、上記を実現する公園内の個別の整備としては、下記のような内容の整備が行われている。

3. 五六川の再生による豊かな生物生息空間の形成
4. 雑木林（里山）の造成による緩衝帯の形成
5. 遊具の撤去

1. 都心部における自然空間の創出

豊田市内には自然豊かな一級河川矢作川が南北に流れ、豊田駅の東側には昆森公園が位置している。これらのちょうど中間に位置する児ノ口公園は、緑地・水辺をつなぐネットワークを強化する位置づけにより整備されている。さらに、緑地・水辺をネットワーク化することにより、相互の生態系の維持にも寄与している。

公園の周辺は住宅地が広がり、都心部にあって自然に近い状態の緑地が提供されており、公園利用者には貴重な空間だという評価や、風通しが良くなり夏でも涼しいという声を聞くことができる。また公園付近には新たにマンションが建設され、その販売のPR材料として児ノ口公園が利用される等、居住空間の質の向上に寄与していると考えられる。



公園北部に建設されたマンション

2. 原風景の再生

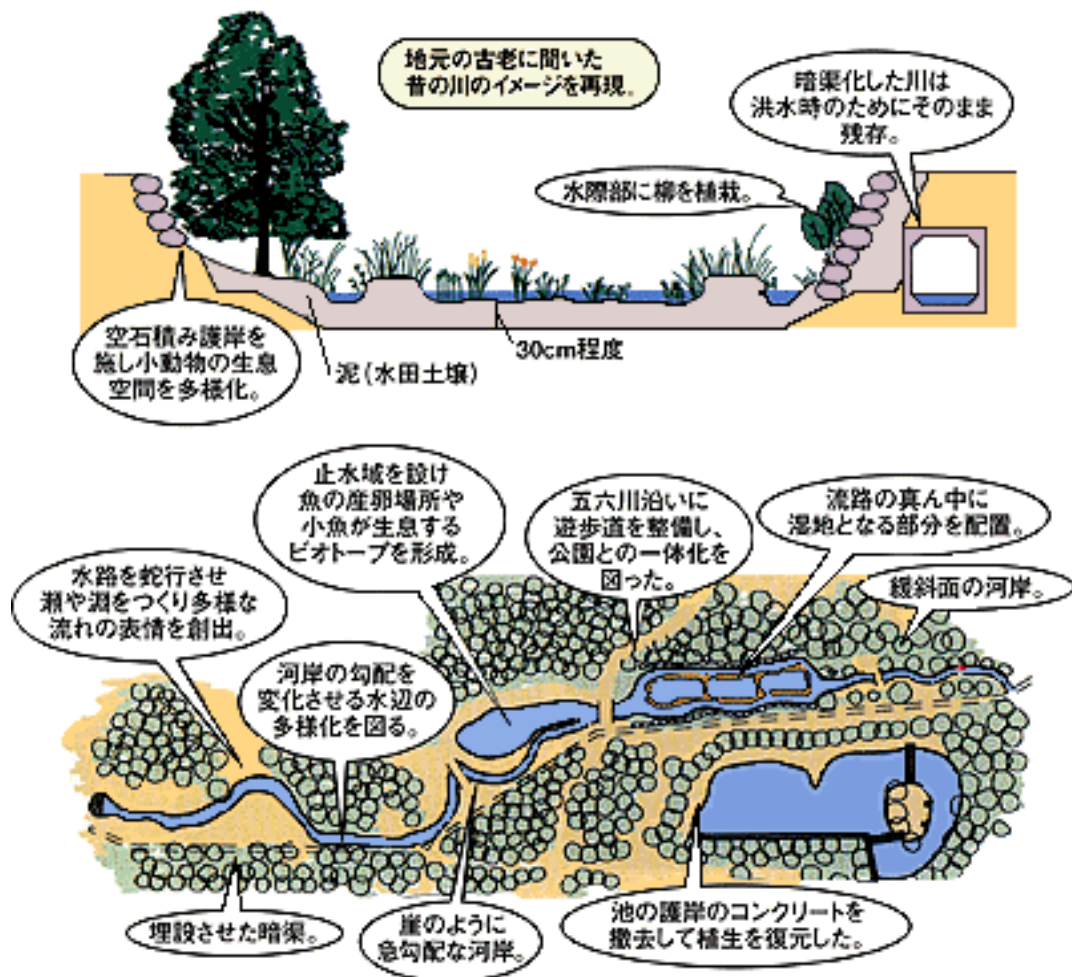
上記 1.と併せて立てられた目的が「原風景の再生」だったが、当時の都市公園を使い慣れた住民にとっては理解しがたいものであったため、住民説明会でも反対の声が相次いだ。そんな中、昔の風景を知る地域の古老を中心としたグループがその主旨に賛同し、豊田市と共に住民の説得にあたり、合意を形成した。

また、実際の設計・施工時にも原風景を知る古老のアドバイスを基に、五六川の再生等が進められている。

3. 五六川の再生による豊かな生物生息空間の形成

設計にあたっては国内外の多自然工法を採用した河川整備事例の視察を行い、参考としている。具体的には流路を蛇行させる事により淵や瀬、止水域を形成すること、護岸を空石積みにすること等により、多様な生物が生息・産卵可能な環境を創出している。施工時には自然な川の線形とするため、実際に水を流して流路を決定するなどの工夫がなされている。

さらに、施工時には地域住民に対して現場見学会を実施する等の住民参加のプロセスが採られている。実際に高齢者の方々を中心とした地域住民が立ち会い、昔の風景に関する話等を参考に細部の作り込みがなされた。



五六川再生の概要

4. 雑木林（里山）の造成による緩衝帯の形成

公園内の北東部には小高い丘が造成されており、いくつかの樹種の樹木が約 8000 本植樹されている。これらは、西側に隣接する国道 153 号と公園との緩衝帯としての役割があり、公園内の広場空間では適度な囲繞感が感じられる。また、植樹に関しては整備時に住民の手により行われたものであり、公園に関する愛着の醸成に寄与しているものと考えられる。

5. 遊具の撤去

本整備は自然空間の創出が目的とされており、設計者の意図としてはジャングルジム等の遊具は必要ないと考えられていた。しかし、住民説明会においては「子供が遊ぶ空間として適切な対応でない」というような反対意見が相次いだ。これに対して豊田市では、①数年間は遊具を設置しない、②竣工後しばらく利用していただき、どうしても遊具がないと子供たちが遊べないということであれば改めて設置を検討する、という条件で遊具の撤去を行った。

整備後十数年が経過した現在でも遊具は設置されておらず、公園内で遊ぶ子供たちの姿も見受けられる。しかし、一部の住民からは遊具の設置を望む声も聞かれる。



周辺に住む子供たちが虫取りをして遊ぶ様子

2) 地域と行政との連携による維持管理体制の確立

住民説明会、施工時の現場見学会等を通じて、高齢者を中心とした周辺住民により「児ノ口公園愛護会」（以下、愛護会）が設立されている。豊田市としても自然公園には地域による維持管理が必要と考えていたため、愛護会を「児ノ口公園管理協会」（以下、管理協会）として正式に日常的な管理（草刈り、清掃等）を委譲している。管理協会では児ノ口公園を拠点として他団体を巻き込んだ維持管理活動を展開し、地域による自主的な管理が成立している。また、地域による管理が難しい園内の照明や高木の枝打ち等については豊田市が管理を行う等、地域と行政との連携による維持管理体制が確立している。

(2) 期待される効果

1) 設計意図と期待した効果のまとめ

文献調査と設計者ヒアリング、事業者ヒアリングによる計画・設計意図と期待される効果の対応は以下のようにまとめられる。

表 設計意図と期待した効果のまとめ

意図		景観に配慮した内容	期待される効果
A 多自然工法による自然空間の創出・原風景の再生			
1	都心部における自然空間の創出	○周囲の自然空間（矢作川・矢作川緑地、昆森公園等）が生態系として機能するためのネットワークを形成する空間として整備を実施 ○都心部に豊富な緑地を提供することにより、快適な居住空間を創出	●施設・空間に対する印象の変化 ●意識変化（親しみ・愛着、誇り） ●利用者の増加 ●利用形態・頻度等の変化
2	原風景の再生	○雑木林、小川、湿地等、昔の風景を再生	
3	五六川の再生	○暗渠化していた都市下水路を、多自然工法により公園内を流れる小川として再生 ○水路を蛇行させ瀬や淵をつくることにより、多様な流れの表情を創出 ○空石積みの護岸や止水域をつくることにより、多様な生物が生息できるビオトープを形成	
4	里山（雑木林）の造成	○約 8000 本の苗木を植樹 ○隣接する幹線道路と自然空間との緩衝領域として機能	
5	遊具の撤去	○自然型の公園を目指したため、遊具を設置しなかった。	
B 住民との連携による維持管理体制の確立			
1	児ノ口公園管理協会の設立（管理の委譲）	○日常的な管理が必要な多自然型の公園について、その管理を住民に委譲。 ○設立された住民団体を管理協会として正式に委託し、管理費を支払う仕組みを形成	●意識変化（親しみ・愛着、誇り） ●住民団体活動の変化

2) 期待される効果の発現段階における整理

上記期待する効果について、効果の発現段階の「意識変化」、「活動変化」、「空間変化」において以下のような効果が想定される。

表 発現段階ごとの効果の整理

期待する効果	意識変化	活動変化	空間変化
● 都心部における豊かな緑地空間の創出	○ 都心で自然が感じられる	○ 通勤・通学路／散歩・ジョギング・ウォーキング／写真撮影・スケッチ／休憩／周りの景色を眺める等の様々な利用が可能となる	○ 周辺空間における店舗の緑化等の実施
● 利用頻度の増加・利用形態の多様化	○ 空間の印象向上 ○ 環境に関する意識の変化		
● 地域活動の活性化	○ 整備空間に関する印象の向上	○ 整備空間を拠点とした地域活動の発展 ○ 利用ルールの設定	

これらを踏まえ、各段階における効果の把握調査を実施した。

II-3. 調査方法と調査結果

(1) 調査方法

1) 調査の設計

本事例の特性を踏まえ、調査方法について以下のように設計した。

児ノロ公園では、現地での事前調査の結果より散歩やジョギング等といった地元住民の日常的な利用が多く見られることが確認され、これを踏まえ、アンケート調査対象者は、地元住民（ここでは、周辺住民と利用者）を対象とすることとした。対象とする周辺住民は、前記した散歩やジョギング等の日常的な利用に注目し、児ノロ公園から 500m 以内の徒歩圏内の街区に存在する住宅とし、調査票の配布方法は、ポスティングとした。また、利用者に対しては直接ヒアリングを行った。

次にヒアリング調査対象について、事業主体関係者は、当時の担当者を中心にヒアリングを実施した。利用団体は、事前に WEB での検索により児ノロ公園の維持管理、活動を行っている団体を調べ、ホームページ等より連絡先等を入手し、調査協力を依頼した。

定点観測調査については、出来るだけ多くの利用実態を捉えるため、平日と休日の両日調査を行った。

表 調査手法と調査内容

調査手法		対象	手法	調査内容
アンケート調査	整備対象位置周辺の地元住民	整備対象から徒歩圏内（500m 以内）の世帯を対象としたアンケート（公園に近い箇所からの a. 全戸ポスティング、b. 直接聞き取り） ※回収状況：a. 151/325 通（46%）、b. 123 通	ポスティング・ヒアリング	○意識変化 ○活動変化
	整備対象の位置する市町村の地域住民	—	—	—
	現地来訪者（観光客を含む）	—	—	—
ヒアリング調査	事業主体（行政）関係者	①豊田市建設部公園課 早川氏、倉地氏（当時担当者） 稲吉氏、小澤氏（現在担当者）	訪問ヒアリング	○意識変化 ○活動変化 ○空間変化 ○その他
	利用団体	①児ノロ公園愛護会 成瀬氏、永井氏 ②なんでもギバー隊 公園整備活動参加者	訪問ヒアリング	○意識変化 ○活動変化
	対象建築物等所有者	—	—	—
定点観測調査		平日・休日	—	○活動変化

2) アンケート調査票 (地域住民用)

ちごのくち 「児ノロ公園」に関するアンケート調査票

- ★児ノロ公園に関する設問は、問1～問12まであります。
- ★問8～問12は、現在の児ノロ公園になる前（平成6年より前）の状況をご存じの方のみ、お答えください。
- ★最後のページに、全ての方を対象に属性についての設問がありますのでご記入をお願いします。

現在の児ノロ公園についてお伺いします

問1 「児ノロ公園」を知っていますか？

1. 知っている。行ったこともある。
2. 知っているが、行ったことがない。
3. 知らない。(この調査で知った)

問2 現在の児ノロ公園が整備されるときに、説明会やイベントに参加していましたか。

1. 参加した
・参加した会の名称 ()
・参加回数 (回)
2. 参加していない

問3 現在の「児ノロ公園」をどのように思いますか？



問4

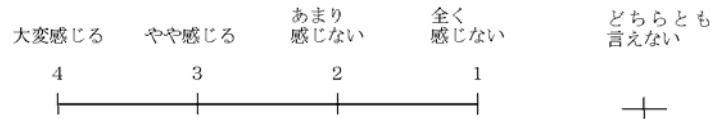
現在の「児ノロ公園」の印象などについての質問です。

ア～オの問いについて、該当する箇所に○を書いてください。

ア. 自然豊かな公園風景をどう思いますか？	大変良い 4	良い 3	悪い 2	大変悪い 1	どちらとも言えない
イ. 小川（五六川）が再生されたことはどのように思いますか？	大変良い 4	良い 3	悪い 2	大変悪い 1	どちらとも言えない
ウ. ブランコや滑り台などの遊具についてどう思いますか？	今後も必要ない 4	無くても良い 3	あつた方が 良い 2	必要である 1	どちらとも言えない
エ. 公園で行われるイベントやお祭りはどう思いますか？	大変良い 4	良い 3	悪い 2	大変悪い 1	どちらとも言えない
オ. 公園の中にいる時に気持ち良く感じられますか？	非常に感じる 4	やや感じる 3	あまり感じない 2	全く感じない 1	どちらとも言えない

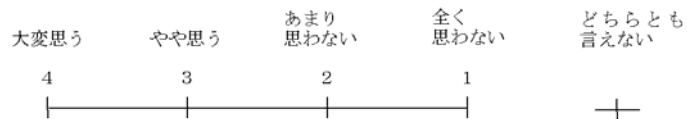
その他に現在の児ノロ公園について、何か感じる事、思っていることがありましたら、自由にお書きください。

問5 現在の「児ノロ公園」に対して、親しみ・愛着（大切に思う、守って
きたいなど）を感じますか？



理 由（自由記入）

問6 現在の「児ノロ公園」を誇り（自慢できる、人に紹介できるなど）に
思っていますか？



理 由（自由記入）

問7

現在の児ノロ公園の「利用目的」と「利用頻度」についての質問です、

ア～カについて該当する項目に「○」をつけてください。

	ほぼ 毎日 4	週 2～3 回 程度 3	月 2～3 回 程度 2	年数回 程度 1	ほとんど なし
ア. 通勤、通学などでの 通り抜けに利用	-----				+
イ. 散歩・ジョギング で利用	-----				+
ウ. スポーツや遊び、ベンチ などでの休憩	-----				+
エ. 自然観察や写真撮影	-----				+
オ. 児ノロ公園で行われる お祭りやイベント への参加・観賞	-----				+
カ. 公園で行われる 清掃活動への参加	-----				+

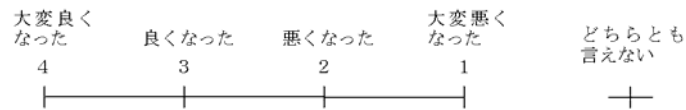
*上記以外にも、利用方法がありましたら、お書きください。

*利用頻度についてもあわせてお願いします。

*問8～問12 は、児ノロ公園が整備される前（平成6年より前）の状況をご存じの方にお伺いします。

整備前と整備後（現在）の児ノロ公園についてお伺いします

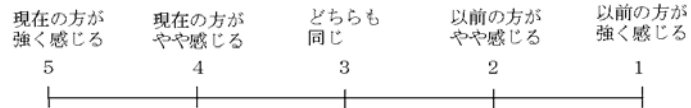
問8 現在の「児ノロ公園」は、整備前と比べてどのようになったと思いますか？



問9 整備前と現在の「児ノロ公園」を比べて、どちらの方が親しみ・愛着（大切に思う、守っていききたいなど）を感じますか？



問10 整備前と現在の「児ノロ公園」を比べて、どちらの方が誇り（自慢できる、人に紹介できるなど）を感じますか？



※整備前から現在の児ノロ公園へ変わって、その他、何か意識的に変化したことがありましたらご自由にお書きください。

問11

整備前と比べて、現在の児ノロ公園の利用目的と利用頻度の変化

についてお聞きます。

ア～カについて該当する項目に「○」をつけてください。

ア. 通勤、通学などでの 通り抜けに利用	新しく 始めた 1	増えた 2	変わらない 3	減った 4	利用しな くなった 5
イ. 散歩・ジョギング・ で利用	新しく 始めた 1	増えた 2	変わらない 3	減った 4	利用しな くなった 5
ウ. 広場でのスポーツや 遊び、ベンチなど での休憩	新しく 始めた 1	増えた 2	変わらない 3	減った 4	利用しな くなった 5
エ. 自然観察や写真撮影	新しく 始めた 1	増えた 2	変わらない 3	減った 4	利用しな くなった 5
オ. 児ノロ公園で行われ るお祭りやイベント への参加・観賞	新しく 始めた 1	増えた 2	変わらない 3	減った 4	利用しな くなった 5
カ. 清掃活動への参加	新しく 始めた 1	増えた 2	変わらない 3	減った 4	利用しな くなった 5

*上記以外に利用方法や利用頻度で変わったことがありましたら、お書きください。

問12 現在のように児ノ口公園が整備されたことがきっかけで、
あなたの自宅や店舗などで変えたことや活動を始めたこと
はありますか？（複数回答可）。

1. 自宅や店舗の前やバルコニー等に積極的に花や植物などを置いている。
2. 自宅や店舗を改装した。（建替え、色の塗り替えなど）
3. 外が見えるように垣根や塀を変えた。
4. 自宅や店舗などの周りも清掃や植木への水遣り等をするようになった。
5. 公園が整備されたので引っ越してきた。
6. ホームページなどで公園の写真をのせている。

その他にありましたら、ご記入ください。（自由記入）

児ノロ公園について、その他ご意見がございましたらお書きください。

アンケートにお答えいただいた方の属性についてお伺いいたします

あなたの年齢、お住まいなどについてお答えください。

(1) 性別：① 男性 ② 女性

(2) 年齢：① 13歳未満 ② 13歳以上～20歳未満 ③ 20歳代
④ 30歳代 ⑤ 40歳代 ⑥ 50歳代 ⑦ 60歳以上

(3) お住まい：ア. 豊田市（ ）町
イ. 児ノロ公園沿いですか？（ はい 、 いいえ ）

(4) 居住年数：① 5年未満 ② 5～14年未満 ③ 14年以上

※「14年以上」は、現在の児ノロ公園が整備される以前からお住まいの方にあたります。

(5) 住居形態：① 戸建住宅 ② 集合住宅 ③ 店舗・事務所
④ その他（ ）

(6) ご職業：① 自営業 ② 会社員等 ③ パートタイマー
④ 専業主婦 ⑤ 無職 ⑥ 学生 ⑦ その他

ご協力、ありがとうございました。

(2) 調査結果

1) 調査結果概要

事例名称	事業分野・施設	所在地	事業主体	事業特性		
Ⅱ 児ノ口公園	公園	愛知	豊田市	1995竣工、改修整備、P Iの実施あり		
調査結果概要						
利用者	現地での調査	対象	手法	意識変化	捉えられた効果 活動変化	空間変化
	利用者へのアンケート調査	地域住民（公園周辺500m区域） 回収数：a. 151通	a: 全戸ポストイング b: 直接聞き取り	○住環境が良くなった ○公園の印象が良くなった ○公園に対して愛着を持つようになった ○環境への関心が高まった	○公園を利用する回数が増えた ○公園で過ごす時間が長くなった ○地域活動に参加するようになった ○清掃等の維持管理活動を行うようになった	
		公園利用者、対象地域の住居	直接聞き取り	○地域の印象が良くなった ○公園の印象が良くなった ○公園に対して愛着を持つようになった ○環境への関心が高まった	○公園を利用する回数が増えた ○公園で過ごす時間が長くなった	
	利用団体へのアンケート調査	当時の関係者にヒアリング/児ノ口公園愛護会、なんでもギバー隊	直接聞き取り	○景観整備に対する意識の変化		
	定点観測調査	平日・土日の公園利用者	公園内での定点観測		○公園利用者の活動状況を確認 ○公園内の利用状況を確認	
行政	行政担当者へのヒアリング	豊田市	移動先へ伺ってのヒアリング	○景観整備に対する意識の変化	○公園利用者が増えた ○学習などで利用されるようになった	○周辺人口が増えた ○公園でのイベントや出店が増えた
景観整備による効果		具体内容				
意識変化	整備した空間の機能向上に対する認知	・周辺住居の風通しが良くなり、公園内も涼しくなった				
	造形・施設・空間の印象評価	・公園全体の印象は良く、整備前後を比較しても良くなったという評価が多い（その一方で、整備前と比較して緑が鬱蒼としていることで公園内に立ち入りにくいという面も生じている） ・施工会社における意識変化（環境、近自然工法の重要性を認識）				
	親しみ・愛着	・整備前と比較して愛着を持つようになった				
	誇り	・整備前と比較して誇りを持つようになった				
利用者行動に与える効果	その他	・施工に携わった社員の、環境に関する意識の高まり（近自然工法の重要性を認識） →自費でビオトープや自然を学ぶ助けとなる参考書（漫画）を出版 →他社との情報共有（中部森林開発研究会、バイオフィット研究会等への参加）				
	利用形態・頻度等の変化	・散策の際の公園利用が増え、周辺地域の子どもが釣り（ザリガニ、魚等）や水生生物を題材とした遊びや缶蹴り等遊び場として利用している（一方で、遊具の設置を望む声の一部が聞かれる）				
	商業活動の活性化	-				
	地域活動の活性化	・整備を契機として地域の活動団体が生まれ、整備前と比較して地域が運営する祭り・行事が数多く開催されるようになった。				
	環境保全、学習活動	・ボーイスカウトの学びの場として活用 ・環境学習の題材として活用				
	施設を核とした避難体制の構築	-				
	近隣住民同士の会話の場	-				
	利用ルールの形成	・児ノ口愛護会が「ゴミは各自持ち帰り」、「①自己責任、②危機管理、③自然共生」				
	樹木の手入れ・花壇等の設置	・児ノ口愛護会が日常的な維持管理、豊田市が照明や橋梁、東屋等個別施設の改修等を行なうという官民の役割分担が明確である				
	清掃等の維持管理活動	・周辺住民、活動団体による清掃活動等の維持管理が行なわれている				
に設けられる効果	その他	・整備をきっかけとして、地域の活動団体「児ノ口公園愛護会」が発足 ・活動に参加する団体（なんでもギバー隊、学生プロジェクト等）の増加				
	商業活動の変化	-				
	建物ファサード変化	・自宅や店舗の改装				
	軒先空間の変化	・自宅等周辺への花・植物の設置等				
	周辺景観の改善	-				
その他	周辺施設の連帯性の向上	-				
	視点場の形成	-				
外部評価の高まり	・視察者の増加 ・外部表彰受賞 ・周辺地価の上昇 ・マンション建設時のPR材料					

調査範囲等

豊田市駅

アンケート配布箇所

定点観測の観測ポイント

定点観測位置

▲親子連れでザリガニ釣りをしている様子

▲子どもたちが虫取りをして遊んでいる様子

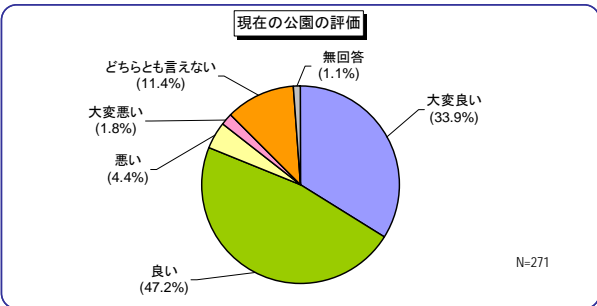
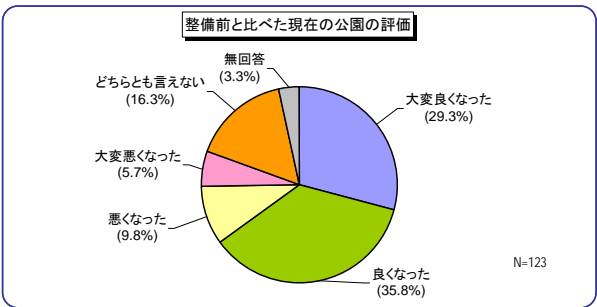
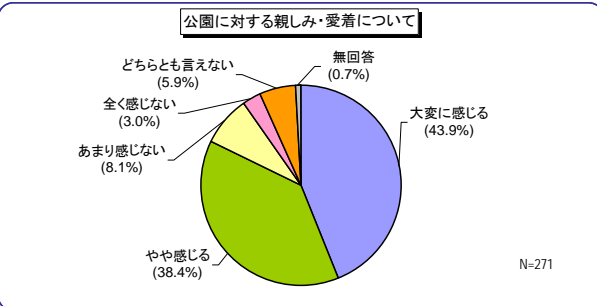
▲児ノ口愛護会・なんでもギバー隊の集会

▲高校生がデートしている様子

▲公園北部に建設されたマンション（出典：株式会社鈴建HP）

2) 調査結果の整理

調査結果の詳細は以下の通り。

景観整備による効果	調査結果	調査手法
①整備した空間の機能向上に対する認知	<ul style="list-style-type: none"> 「周辺住居の風通しが良くなり、公園内も涼しくなった」 (ただし、「整備前と比較して虫が多い」「落ち葉の処理が必要」等の不満・要望も生じている) 	アンケート
意識変化	<ul style="list-style-type: none"> 現在の児ノロ公園に対する評価「大変良い」「良い」(81%) 	アンケート (N=271)
	<ul style="list-style-type: none"> 「自然豊かな公園風景が良い」(89%) 「五六川が再生されたことを良いと思う」(86%) 「公園の中に居て、心地良いと思う」(82%) 「公園で開催されるイベントやお祭りを良いと思う」(81%) 「整備時に撤去した遊具(ブランコ、滑り台等)は無くても良い」(50%) 現在の児ノロ公園を整備前と比べて「大変良くなった」「良くなった」(64%) 	アンケート (N=123)
③親しみ・愛着	<ul style="list-style-type: none"> 「(今現在の) 児ノロ公園に親しみ・愛着を感じる」(82%) 	アンケート (N=271)

		<ul style="list-style-type: none"> 「整備前と比べて、今現在の児ノロ公園の方が愛着や親しみを感じる」 (57%) 	アンケート (N=123)
④誇り		<ul style="list-style-type: none"> 「(今現在の) 児ノロ公園を誇りに思う」 (70%) 	アンケート (N=271)
		<ul style="list-style-type: none"> 「整備前と比べて、今現在の児ノロ公園の方が誇りに感じる」 (63%) 	アンケート (N=123)
⑤その他 (環境に関する意識の高まり [設計・施工会社])		<ul style="list-style-type: none"> 施工会社における意識変化が見られ、環境や近自然工法の重要性を認識 多自然工法やビオトープといった技術を会社の看板として捉えている コミュニティ・次世代の子供たちのため、という意識も高まり、自費でビオトープや自然を学ぶ助けとなる参考書(漫画)を出版 環境に関する意識を他社と共有することも必要という意識の芽生えから、中部森林開発研究会、バイオフィット研究会等への参加 	ヒアリング (設計・施工会社)

利用者行動に与える効果	①利用形態・頻度等の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・以前のグラウンド、プールの利用と比べ、虫とり、ザリガニ釣り、散歩、休憩、イベント利用、自然観察等、多様な利用形態が生じている。 (ただし、野球等、十分な広さがある広場が必要な利用形態は無くなっている) ・利用形態【通勤・通学、スポーツや遊び・ベンチ等での休憩】については、利用頻度が減少したが、その他の利用形態については利用頻度が増加している (通勤・通学の利用頻度の減少については、公園敷地内の通路が舗装されておらず、通過のみの利用はされにくいことが考えられる。また、スポーツ利用の頻度の減少については、広場面積の減少が影響していることが考えられる) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>利用形態</th> <th>増加</th> <th>減少</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通勤・通学</td> <td>13%</td> <td>17%</td> </tr> <tr> <td>散歩・ジョギング</td> <td>43%</td> <td>16%</td> </tr> <tr> <td>スポーツや遊び、ベンチ等での休憩</td> <td>20%</td> <td>31%</td> </tr> <tr> <td>自然観察や写真撮影</td> <td>30%</td> <td>11%</td> </tr> <tr> <td>祭りやイベントへの参加・鑑賞</td> <td>38%</td> <td>12%</td> </tr> <tr> <td>清掃活動への参加</td> <td>20%</td> <td>12%</td> </tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div> <p style="text-align: center; margin-top: 5px;">■ザリガニ釣りをする親子 ■虫捕りに興じる子供たち</p>	利用形態	増加	減少	通勤・通学	13%	17%	散歩・ジョギング	43%	16%	スポーツや遊び、ベンチ等での休憩	20%	31%	自然観察や写真撮影	30%	11%	祭りやイベントへの参加・鑑賞	38%	12%	清掃活動への参加	20%	12%	アンケート (N=123)、 ヒアリング (活動団体)
	利用形態	増加	減少																					
	通勤・通学	13%	17%																					
	散歩・ジョギング	43%	16%																					
	スポーツや遊び、ベンチ等での休憩	20%	31%																					
	自然観察や写真撮影	30%	11%																					
	祭りやイベントへの参加・鑑賞	38%	12%																					
	清掃活動への参加	20%	12%																					
	②商業活動の活性化	—																						
③地域活動(イベント・行事)活性化	・地域団体等が企画・運営を行う祭り・イベントが数多く開催されるようになった	ヒアリング (活動団体)																						
④環境保全・学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ボーイスカウトの学びの場として活用 ・環境学習の題材として利用 	アンケート 定点観測																						
⑤施設を核とした避難体制の構築	—																							
⑥近隣住民同士の会話の場	—																							
⑦利用ルールの作成	・児ノロ公園愛護会が「ゴミは各自持ち帰り」、「①自己責任、②危機管理、③自然共生」という公園利用のルールを設定	ヒアリング (活動団体)																						
⑧樹木の手入れ・花壇等の設置	・周辺住民、活動団体による維持管理の実施	ヒアリング (活動団体)																						
⑨清掃等の維持管理活動	<ul style="list-style-type: none"> ・児ノロ公園愛護会が日常的な維持管理を、豊田市が照明や橋梁、東屋等の個別施設の改修等の維持管理を行っている ・住民(地域団体)と行政が協力した維持管理体制が成立している 	ヒアリング (活動団体)																						

	<p>⑩その他 (利用者層の拡大/地域活動団体の活動の発展)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用形態が多様化したことにより、小さい子どもから年配の方まで使える場所となった ・整備を契機として地域の活動団体(児ノ口公園愛護会)が発足 ・活動に参加・協力する団体(TUVどこでもギバー隊、学生プロジェクト、交流館、自治会等)の増加  <p>■児ノ口愛護会・なんでもギバー隊の集会</p>	<p>ヒアリング (活動団体、行政) アンケート</p>
<p>施設周辺の空間に与える効果</p>	<p>①商業活動の変化</p>	<p>—</p>	
	<p>②建物ファサード変化</p>	<p>・自宅や店舗の改装(5/123名)</p>	<p>アンケート</p>
	<p>③軒先空間の変化</p>	<p>・自宅等周辺への花・植物の設置等(15/123名)</p>	<p>アンケート</p>
	<p>④周辺景観の改善</p>	<p>—</p>	
	<p>⑤周辺施設の連帯性の向上</p>	<p>—</p>	
	<p>⑥視点場の形成</p>	<p>—</p>	
<p>その他</p>	<p>①外部評価の高まり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・知人等より住環境に関する高い評価を受けるようになった ・視察者の増加 ・土木学会デザイン賞受賞(平成16年) ・周辺地価の上昇 ・マンション建設時のPR材料として活用  <p>■公園北側に建設されたマンション(株式会社鈴鍵HPより)</p>	<p>アンケート</p>

3) 効果の波及フロー

■ 児ノロ公園の景観整備による効果の波及フロー

